

想定し得る最大規模の風水害時のリスクシナリオ

時間

3日前

1日前

平均風速
10m/s
時間雨量
10mm程度

12時間前

平均風速
10~25m/s
時間雨量
30mm程度

6時間前

平均風速
25~50m/s
時間雨量
50mm程度

発災

平均風速
50m/s程度
時間雨量
150mm程度

平均風速
25~50m/s
時間雨量
50mm程度

12時間後

1日後

3日後

1週間後

雨・風・河川の状況など

雨の降り方

時間雨量10~20mm



時間雨量20~50mm



時間雨量50mm~



風の吹き方

平均風速15~20m/s



平均風速20~25m/s



平均風速25m/s~



平均風速:10分間の平均値

暴風域の様相

▼最大瞬間風速
30~40m/s



窓ガラス、屋根の破損

▼最大瞬間風速
40~60m/s

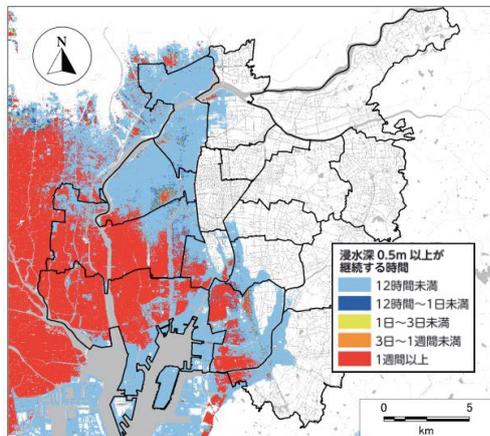


屋根瓦・葺材の飛散、木造住宅は壁の損傷や、最悪の場合倒壊

瞬間的な強風により、建物が大きく損傷する可能性

最大瞬間風速:
瞬間風速(3秒平均)の最大値

高潮による浸水継続



▼海拔ゼロメートル地帯や河川沿いで浸水が継続

気象情報 / 防災情報

- ▼早期注意情報(警報級の可能性)
- ▼台風予報発表(5日間予報)
- ▼気象庁による緊急会見(特別警報級の台風)
- ▼気象台・地方整備局・運輸局による合同記者会見(特別警報級の台風)
- ▼警報や注意報に先立つ注意の喚起
- ▼気象注意報発表(大雨、雷、波浪、洪水等)

▼**警報(暴風・高潮)**

▼**特別警報(暴風・高潮・波浪)**

- ▼警報(大雨・洪水)
- ▼竜巻注意情報

▼**暴風域に入る**

- ▼顕著な大雨に関する気象情報
- ▼土砂災害警戒情報
- ▼洪水予報(氾濫注意~氾濫危険)

▼**台風上陸**

- ▼記録的短時間大雨情報
- ▼特別警報(大雨)
- ▼氾濫発生情報(洪水・高潮)



- ▼特別警報から警報への切り替え
- ▼土砂災害警戒情報の解除

- ▼気象警報・注意報解除
- ▼堤防決壊等に伴う気象警報の発表基準(発表の基準とする水位・雨量等)の引き下げ

名古屋市など

▼気象情報や防災情報の収集

- ▼災害警戒本部
- ▼市民に必要な情報を随時発信



- ▼不要不急の外出抑制の呼びかけ
- ▼災害対策本部
- ▼災害救助地区本部(地域の対応拠点)

▼**警戒レベル3 高齢者等避難(高潮)**

▼**警戒レベル4 避難指示(高潮)**

- ▼水門・陸閘等の閉鎖や積み土のう等の水防活動の実施



▼**警戒レベル4 避難指示(洪水・土砂)**

▼自衛隊をはじめとした応援要請

▼**警戒レベル5 緊急安全確保**

- ▼被害状況の確認
- ▼救助・救出活動/被災者の身元確認

- ▼堤防の修復旧や排水作業等の応急復旧活動



▼災害廃棄物への対応



- ▼ボランティアとの連携・受入れ
- ▼各種被災者支援の広報
- ▼家屋被害調査開始
- ▼罹災証明書等の受付開始

甚大な被害により被害状況把握が難航し、救助・救出や応急復旧、被災者支援等が円滑に進まず長期化するおそれ

※このシナリオは、想定し得る最大規模(1,000年に1度程度)の風水害(洪水・内水氾濫・高潮)等が発生した場合の被害様相等をシナリオにしたものです。シナリオに記載のある状況、対応、リスク等は多種多様な風水害時の一つの例であり、実際に起こり得る状況とは異なる可能性があります。

時間	指定緊急避難場所/指定避難所	自宅等	その他(学校・職場・外出先など)
3日前	<p>▼指定緊急避難場所の開設(自主避難者の受け入れ)</p>	<p>▼テレビ等で台風等の気象情報が流れる</p> 	<p>▼テレビ等で台風等の気象情報が流れる</p> <p>▼休校や休業の検討</p> 
1日前 平均風速 10m/s 時間雨量 10mm程度	<p>▼指定緊急避難場所の開設(避難情報に基づく避難)</p> 	<p>▼市からの高齢者等避難(テレビ、ラジオ、HP、SNS、緊急速報メール、防災スピーカー、広報車)(高潮)</p> <p>▼市からの避難指示(高潮)</p>	<p>▼休校や休業の可能性</p> <p>▼授業等がある場合、生徒は校内で待機</p>
12時間前 平均風速 10~25m/s 時間雨量 30mm程度	<p>リスク2 避難場所が大混雑する可能性</p> 	<p>■竜巻等の突風による窓ガラス・屋根等の破損</p> <p>■歩けないほどの強風と飛来物により避難が困難になる</p> <p>■風の影響で停電、通信不通等が発生</p>	<p>■多くの避難者の移動により渋滞が発生</p> <p>■物資の買い溜め等により、スーパー等商品が品薄になる</p> 
6時間前 平均風速 25~50m/s 時間雨量 50mm程度		<p>■土砂災害の危険性が高まる</p> <p>■ため池決壊の可能性が高まる</p> <p>▼市からの避難指示(洪水・土砂)</p> <p>リスク1 避難が遅れた場合、移動中に被災する可能性</p>	<p>リスク6 移動手段が限られ帰宅が困難になる</p> <p>リスク6 鉄道の運休により駅等で滞留者が発生</p> <p>※場所により被災者になる可能性</p> 
《市内の地形特性により洪水・内水氾濫・高潮・土砂災害等が発生》※被災状況は地域で異なる			
発災 平均風速 50m/s程度 時間雨量 150mm程度	<p>リスク10 浸水地域内の指定避難所や自宅、職場、地下街等において浸水が発生</p> <p>リスク1 逃げ遅れ等により浸水や土砂崩れ等に巻き込まれ被災する可能性</p> <p>リスク4 浸水地域やその付近等においてライフラインが使用できない可能性</p> <p>リスク9 携帯電話等の通信機器が使用できず救助要請ができない可能性</p> 	<p>■強風で移動が困難な状況が継続</p> <p>■浸水地域内の多くで浸水が継続</p> 	<p>リスク9 通信途絶等で情報が十分に伝わらず混乱</p> <p>■携帯電話のバッテリー切れ等により、家族との連絡や情報収集等が困難になる</p> 
12時間後 平均風速 25~50m/s 時間雨量 50mm程度	<p>■被害の収まった地域から多くの被災者が集まる</p> <p>■停電地域では、テレビ等による情報収集や照明、空調等が使用できない</p> <p>リスク5 空調が使えず熱中症になる可能性</p> 	<p>リスク5 ライフラインが使用できず熱中症や生活不活発病等が増加</p> <p>■浸水や停電により、マンションのエレベータが使用できなくなる</p> 	<p>リスク3 病院で浸水・停電・断水等が継続すると、医療サービスを受けられない</p> <p>■スーパー等の休業により、物資や食料の調達が困難になる</p> 
1日後	<p>■慣れない生活環境により、高齢者や既往症を持つ人の病状が悪化</p> 	<p>リスク4 長期間浸水する地域では、上階に避難した者も物資が底を尽きる</p> <p>■浸水の長期化等により自宅等での生活が困難な者が指定避難所へ</p>	<p>リスク11 浸水解消地域では片付け作業が始まり、廃棄物が公園や道路等に混合状態で排出され、悪臭や交通障害が生じる可能性</p> 
3日後	<p>■水分不足や運動不足により、エコノミークラス症候群等の健康障害を引き起こす</p> <p>■避難者増加に伴う物資不足が発生</p>	<p>リスク7 浸水した家電製品による通電火災が生じる可能性</p> <p>■甚大な被害により、救助・救出されない可能性</p>	
1週間後	<p>■プライバシーやペットなどの生活ルールに関するトラブルが増加</p> 		

避難生活の長期化により、衛生環境の悪化による感染症蔓延や精神疲労等による災害関連死等の課題が深刻化するおそれ



ライフライン(上下水道・電気・通信・ガス)

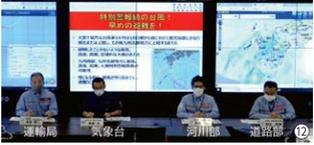
- ▼気象情報や防災情報の収集
 - ▼体制状況について情報共有
 - ▼関連企業への連絡、状況把握
 - ▼応急復旧拠点準備
- 
- ▼応急活動に向けた応援体制の確保
 - ▼自衛水防活動の実施
- 風の影響で一部地域で停電、通信不通等が発生
- 
- ▼供給停止状況等の広報

リスク 4 8 浸水地域やその付近等においてライフラインが停止する可能性

※供給施設等が被災した場合は、浸水地域以外においても影響が生じる(上下水道・電気・通信)



道路・鉄道

- ▼気象情報や防災情報の収集
- 地下鉄やバスも運休する可能性!
- ▼鉄道等の「計画運休の可能性」を発表
 - ▼関係機関との連携体制確保
- 
- ▼運転計画発表(計画運休)を発表
 - ▼計画運休の実施、運行状況の情報提供
- ▼応急活動に向けた応援体制の確保
 - ▼自衛水防活動の実施
- 舗装が破損する等の道路損壊が発生
- 倒木等による通行止めが発生
- 
- ▼道路交通情報等の広報
- アンダーパスや低地で道路が冠水
- リスク 8** 道路が一部通行止め
- 

リスク 8 道路や鉄道が広範囲に浸水



- ▼各事業者による被害状況の把握
 - ▼被害状況を踏まえた復旧方針・計画の立案
- 
- ▼供給停止・使用制限・復旧見通し等の広報
 - ▼浸水解消地域から応急復旧活動
 - ▼応急対策車両や災害復旧機器等を活用した応急復旧
- 
- ▼浸水が解消された軽微な浸水住宅への漏電検査の実施
- 
- ▼浸水が解消された地域での復旧活動を継続
 - ※建物自体が被災した場合やライフライン供給施設等が大きく被災した場合、復旧に長期間を要する可能性

- ▼道路管理者・鉄道事業者による被害状況の把握
- 停電が発生している地域では信号が停止
- 浸水が解消した道路内に、放置された被災車や災害ごみ等が散乱
- 
- ▼浸水解消地域から復旧活動
 - ▼道路区間の指定・車両の移動
- 通行可能な道路に車が集中し、市内各所で渋滞が発生
- 
- 地下鉄では大量の水が地下に流入し、浸水が解消されるまで復旧対応が困難
- ▼鉄道の運行停止に伴う代替輸送の実施に係る広報
- 
- ▼浸水が解消された地域での復旧活動を継続
 - ▼【鉄道】復旧完了区間から運行再開
 - ▼【道路】段階的に交通規制解除

ライフラインや道路、鉄道の甚大な被害により、長期的に身の回りの様々な生活環境に大きな支障が生じるおそれ